

令和 6 年 5 月 28 日現在

機関番号：13802

研究種目：奨励研究

研究期間：2022～2022

課題番号：22H04303

研究課題名 退院先の療養形態ごとにカスタマイズした退院サマリーの作成と評価

研究代表者

大澤 志保 (Osawa, Shiho)

浜松医科大学・医学部附属病院・薬剤師

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 480,000円

研究成果の概要：退院時に病院薬剤師が作成する薬剤管理サマリー（以下、退院サマリー）に必要とされる情報は、療養先や関わる職種によって画一的ではないと考えられる。本研究は、退院後の薬剤管理に携わる多職種のニーズに応える退院サマリーの作成を目的に、第一段階として小人数の薬局薬剤師および訪問看護師に退院サマリーに必要な情報についてアンケートを行った。結果、入院中に処方追加や用法が変更になった理由や服薬状況、病名や検査値の情報が必要とされていることが示唆された。また、薬局薬剤師以外の職種の回収率が低いことが課題として明らかとなった。本結果は、多職種への大規模アンケートを実施するうえで有用だと考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の薬局薬剤師および訪問看護師へのアンケートにより、退院後の薬物療法に関わる他施設の医療スタッフが必要としている情報が抽出され、課題も明らかとなった。本結果をもとに、退院サマリーに必要とされる情報について多職種への大規模アンケートを実施できれば、退院先の療養形態ごとに必要な情報を抽出し、療養先の形態や職種に合わせた退院サマリーを作成することが可能になると考える。さらに、カスタマイズした退院サマリーを運用、再評価を繰り返すことで、療養先だけでなく浜松市西部地域に合わせた退院サマリーを完成させ、退院後も継続した薬学的ケアが円滑に行われるようにすることを目標とする。

研究分野：医療薬学

キーワード：退院サマリー アンケート 多職種連携

1. 研究の目的

本研究は、退院後の患者の薬剤管理にかかわる多くの職種のニーズを十分にカバーできる退院サマリーを作成することを目的としている。2022-2023年度は、退院サマリー作成に伴う多職種、大規模なアンケート調査をする前段階のインタビューを目的に、小規模でのアンケート調査を実施した。

2. 研究成果

研究課題「退院先の療養形態ごとに退院サマリーをカスタマイズする必要性の検討」として、浜松医科大学倫理審査委員会に申請し承認された(22-163)。倫理委員会承認後、浜松市、磐田市の薬局薬剤師、看護師(訪問看護)を対象にアンケート調査を行った。アンケート調査にはWEBCAS®(WOW WORLD 株式会社)のアンケートシステムを用いた。アンケートは、回答者の職種、年代、地域、主に受け入れている患者の療養形態の回答者情報および当院ですでに使用している退院サマリートのフォーマット内容に基づき、役立った項目(患者基本情報、服薬状況、薬剤に関する情報)、追加を希望する項目、薬学的管理の向上に寄与した点について質問した。10名の薬局薬剤師、看護師にアンケート調査を依頼し、7名より回答された。職種は薬局薬剤師6名(86%)、看護師1名(14%)、年代は、30-40代が7名(100%)であった。患者の主な療養形態(回答5名)は自宅療養が3名(60%)、その他が2名(40%)であった。患者基本情報として有用であった内容(回答者7名)は、体重(5名71%)、病名(6名86%)、既往歴(4名57%)、アレルギー歴(3名43%)、副作用歴(4名57%)、腎機能(5名71%)、肝機能(5名71%)、その他検査値(4名57%)、OTC・健康食品の有無(1名14%)であった。服薬状況では、服薬管理方法(6名86%)、服用方法(4名57%)、調剤方法(4名57%)、服用状況・アドヒアランス(4名57%)および患者理解度(3名43%)の回答が得られた。薬剤に関する情報のうち有用であったと回答された内容について(回答者7名)は、入院中に追加・増量された薬剤情報(6名86%)が最も多く、ついで、入院中の用量変更の理由、退院処方の内容(5名71%)が多く回答された。さらには、退院時の薬剤師からの指導内容に関しても7名中5名(71%)より有用であったとの回答があった。

今回のアンケートより、退院後の他施設の医療スタッフが必要としている情報として、入院中に処方追加や用法が変更になった理由などを含める情報、服薬状況が挙げられた。また患者情報の中でも薬局薬剤師では得づらい病名や検査値の情報が必要とされていることが示唆された。一方で、薬局薬剤師からの回答に偏っていること、看護師からの回収率が低かったことが現段階での課題である。今後、病院薬剤師、理学療法士、栄養士など多職種に向けたインタビューを実施する予定である。さらには看護師との連携も強化したうえでの回収率の向上を目指し、本研究の質、意義をさらに向上させる必要がある。2024年度以降も、引き続き研究を継続し、多職種のニーズをカバーできる薬剤退院サマリートの作成を目指す。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
----	--------